

## 題目 集団を越えた相互協力の達成に関する実験的検

氏名：舘石 和香葉

指導教員：高橋 伸幸

相互協力を達成するためには、個人による利己的な行動をいかにして抑え、全体の利益を確保するかという「秩序問題」を解決しなければならない（山岸・亀田, 2014）。人間社会では、この秩序問題を解決するために、集団主義原理と普遍主義原理という 2 つの秩序形成原理が用いられてきた。

集団主義原理に基づく集団主義社会では、閉ざされた集団内で評判を共有し、悪評が立った者を排除することで秩序問題を解決してきた（Greif, 1989, 1994; 山岸, 2014）。ただし、排除が効力を持つのは、集団内でのみ協力関係が築かれる「閉ざされた」社会であるからだと考えられる。仮に、社会に属する人々が、今いる集団から排除されても他集団とやり取りができれば、排除の効力は弱く、集団主義原理に基づく秩序形成は困難になるはずである。一方で、その後に登場した普遍主義原理に基づく普遍主義社会では、裁判のしくみなどの公的な法制度を整備することで秩序問題を解決してきた（Greif, 1994, 2006; 山岸, 2014）。集団主義社会と普遍主義社会を比較すると、後者の方が秩序を維持するのにコストがかかる（e.g. 公的な法制度の導入、維持）。しかし、集団主義社会は、秩序の維持にはコストはかからないものの、閉ざされた集団内でしか協力関係を築けないため、集団の垣根を越えて協力することによってさらなる利益が得られる機会を失ってしまう。一方で、普遍主義社会は、不正があった場合も所属集団に関わらず訴えることが可能なため、人々は集団の垣根を越え、より良い相手と協力関係を結ぶことに積極的となる。結果的に、普遍主義社会は「開かれた社会」となる。

科学技術の発達や、交易可能な範囲の拡大に伴い、現代社会では集団を越えて協力することで、得られる利益は高まった。すなわち、集団を越えた相互協力の達成は、全員にとって望ましい状況をつくり出す。このような現代社会の状況を考慮すると、全体の利益を高めるためには、集団主義社会から普遍主義社会へ移行する必要があると考えられる。そこで、本研究は大きな問いとして「いかにして集団主義社会から普遍主義社会へ移行できるのか」という問いを設定する。具体的には、人が閉ざされた集団内の協力関係に限定されず、集団を越えた協力関係を築くために何が有効となるのかを検討していく。この問いを解明するための初段階として、本論文における研究 1、研究 2 を行った。

これまで、公的な法制度が集団を越えた協力を促進するのことは実証的に確かめられてこなかった。そこで、研究 1 では、普遍主義原理である公的な法制度が、集団を越えた相互協力の達成に対し有効なのか否かを、実験室実験において実証的に検討した。参加者は 2 つの集団に分けられ、内・外集団のメンバーへ資源を提供するゲームを行った。その際、所属集団に関わらず適用される普遍的な罰制度が存在する条件と、統制条件を設定し、条件間での内・外集団メンバーへの協力率を比較した。その結果、普遍的な罰制度が存在すると、外集団の相手に対しても、自分に協力してくれるだろうという期待が高まり、集団を越えた協力行動が促進されることが示された。したがって、研究 1 は、公的な法制度が、集団を越えた相互協力が達成された「開かれた社会」を形成することを実証的に確かめたという点で意義がある。

続く研究 2 では、今まで明らかにされてこなかった「普遍主義社会への移行を阻害する要因」を検討するために、実験室実験を行った。具体的には、相手の所属集団に関わらず協力する「普遍主義者」は、集団内の他のメンバーから裏切り者だとみなされ、集団内からの評判が低下する可能性があるのか否かについて検討を行った。参加者は、内・外集団へ資源を提供する課題を行い、他のメンバーがその課題において普遍主義者、内集団ひいき者であった場合にいかなる評判をつけるかを回答した。その際、条件操作として統制条件と、集団間に利害対立がある条件を設定した。その結果、普遍主義者の評判が内集団ひいき者よりも低下するのは、集団間に利害対立がある状況に限られ、一般的な状況では普遍主義者の方が比較的良い評判が得られることが示された。したがって、研究 2 では、集団を越えた協力が評判を低下させるという阻害要因は特定の状況に限定される可能性を明らかにすることができた。

本研究 1,2 は、いかにして集団主義社会から普遍主義社会へ移行できるのかという問いを解明するにあたり、どちらも重要な知見の一端となった。ただし、本研究では「集団主義社会が安定した状態である場合に、そこを出発点として普遍主義社会へいかにして移行できるのか」という問いは直接的には検討されていない。人間社会の出発点である狩猟採集社会が集団主義社会であったとすると、集団主義社会を出発点としたうえで、いかにして普遍主義社会へ移行するかを検討することが重要となる。なぜならば、何もない状態から普遍主義社会を形成するのと、集団主義社会が安定した状態から普遍主義社会へ移行するのでは、そのプロセスは大きく異なると考えられるからである。今後は、社会科学や進化生物学のモデルの知見を取り入れ、この問いを解明していく。